

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年4月26日(2018.4.26)

【公表番号】特表2017-513679(P2017-513679A)

【公表日】平成29年6月1日(2017.6.1)

【年通号数】公開・登録公報2017-020

【出願番号】特願2017-507657(P2017-507657)

【国際特許分類】

A 4 3 B 5/04 (2006.01)

【F I】

A 4 3 B 5/04 L

A 4 3 B 5/04 K

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月16日(2018.3.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

スニーカーなどの靴は使用者の足サイズに密着するように靴の紐がジグザグ状に連結されるように備えられ、上記靴の紐を引っ張って締め付けることにより、靴と使用者の足との密着性を高めて快適な歩行ができるようになっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

つまり、外力によって上記翼部 1 5 3 y の端部に備えられた噛合拘束部 1 5 3 z は上記ラチェット型ギア 1 5 7 c の歯について回転されるが、この時、上記翼部 1 5 3 y は内側に曲がってから次の歯で弾性回復力の作用によって原状に復帰される。従って、上記翼部 1 5 3 y がこのような過程を繰り返すことにより上記中間部材 1 5 3 は使用者にクリック感を提供しながら、時計回り方向に回転されることができる。しかし、反時計回り方向には、上記翼部 1 5 3 y が原状態に復帰されることにより、上記噛合拘束部 1 5 3 z が上記ラチェット型ギア 1 5 7 c に完全に噛合されて拘束されるので、中間部材が回転されない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

このために、上記中間部材 1 5 3 の中央部には、弾発拘束部が周辺に形成された弾性結合孔 1 5 3 a が形成されている。ここで、上記弾発拘束部は上記中間部材が外力によって昇降されることによって上記サポート部材 1 6 0 の外周によって上昇及び下降された状態が保持されるように支持され、それにより、上記中間部材 1 5 3 が上記巻取部材が相互選択的に結合されたり分離されるようにする。即ち、上記中間部材 1 5 3 が上昇すると、上

記係止型噛合部 1 5 5 f と係止結合部 1 5 3 f との間の結合が解除され、逆に上記中間部材 1 5 3 が下降されると、上記係止型噛合部 1 5 5 f と係止結合部 1 5 3 f とが相互結合される。

そして、上記中間部材 1 5 3 の上部及び外側部には外力を伝達するように回転カバー 1 5 1 が回転方向及び上下方向に一体に動作するようにフック結合方式乃至接着剤の結合方式などで結合されることが好ましい。

それにより、使用者は上記回転カバー 1 5 1 を一方向に回転させてワイヤ L を締め付けることができ、逆にワイヤ L を解くためには、上記回転カバー 1 5 1 を上昇させて上記中間部材 1 5 3 と巻取部材 1 5 5 との結合を解除した後ワイヤ L の両端を引っ張って簡単に解けるようにすることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

一方、上記のサポート部 1 6 0 の外周上部と下部には下側へ行くほど半径方向の外側に傾斜したガイド部 1 6 0 a と半径方向の内側に傾斜した係止部 1 6 0 b がそれぞれ形成されて、全体的に外周面が「< >」形状に形成されることが好ましい。

従って、使用者の操作による外力によって上記回転カバー 1 5 1 及び上記中間部材 1 5 3 が再び一体に下降する際には、上記ガイド部 1 6 0 a が上記弾性片 1 5 3 c 及び第 1 装着部 1 5 3 b を内側に窄めながら通過して上記係止部 1 6 0 b が上記第 1 装着部 1 5 3 b の上面に装着される。

この場合、上記弾性片 1 5 3 c の内周は、上記ガイド部 1 6 0 a と噛み合うように傾斜して形成されて、スライディング接触による安定した移動を保証することが好ましい。